

稲作情報

秋田地域振興局 農林部 農業振興普及課

No.3

TEL:018-860-3410

FAX:018-860-3834

茎数はほ場間差が大きい！

生育量に応じた水管理と病害虫防除の徹底を！

1 気象経過と生育状況

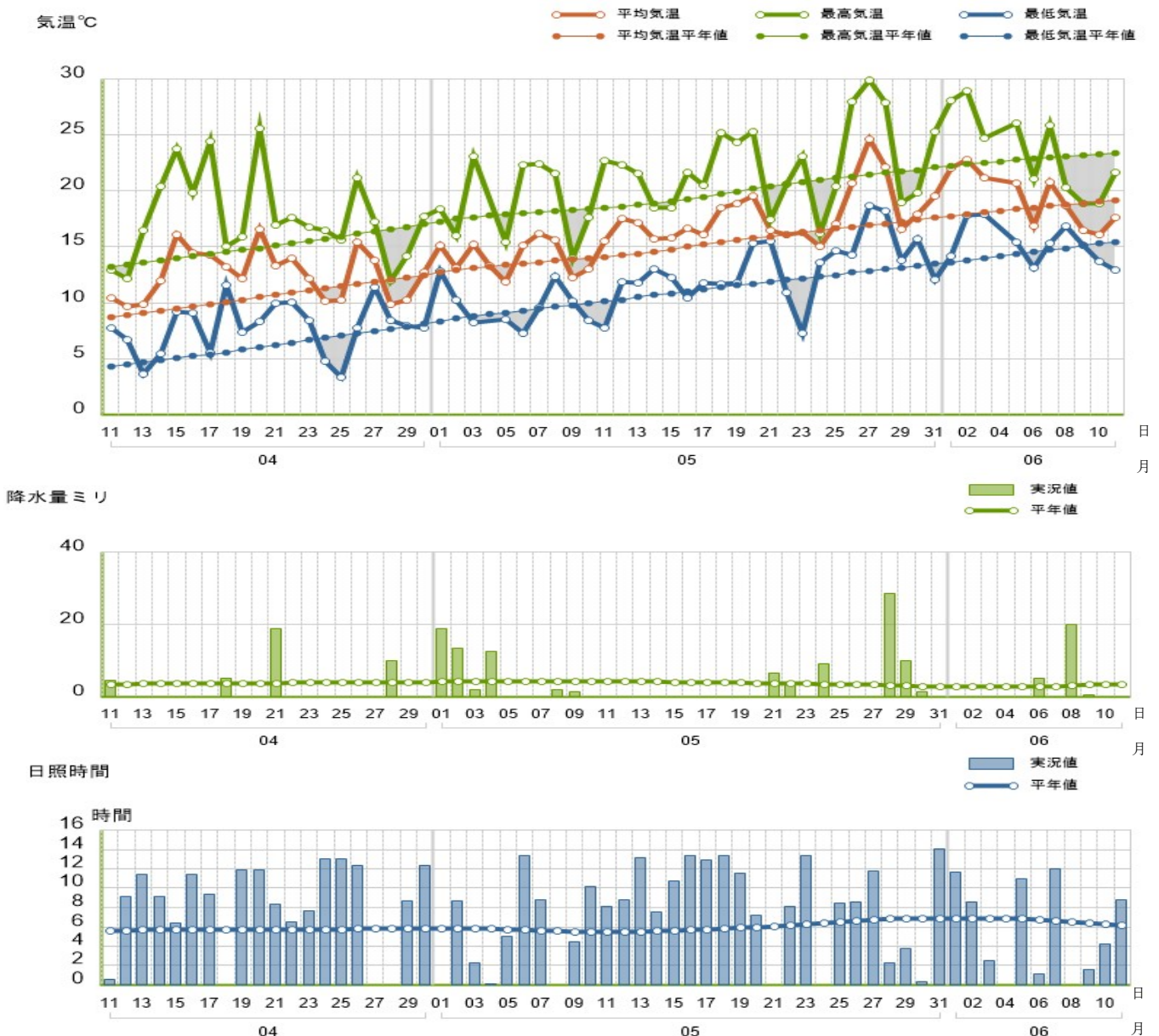


図1 気象経過と平年値 (アメダス秋田、秋田県農業気象システムから引用)

表 水稲定点生育調査結果 (6月10日調査)

	本年	比較(比・差)	
		平年	前年
栽植密度	19.3株/m ²	105%	103%
草丈	26.5cm	103%	117%
茎数	202本/m ²	136%	170%
葉数	6.9葉	+0.4葉	+0.7葉

※管内定点ほ場10地点(あきたこまち)の平均値

〈概況〉

管内の田植盛期は5月19日(平年差遅1日)でした。

6月10日の定点調査結果(あきたこまち)は、草丈は26.5cm(平年比103%)、茎数が202本/m²(平年比136%)、葉数は6.9葉(平年差+0.4葉)でした。

田植日によりほ場間差がありますが、草丈はやや長く、葉数は田植が早かったほ場で進んでいます。活着が良好であったことや葉数が進んでいることから、5月中旬に田植された地点では概ね初期分けつを確保できました。

仙台管区气象台から6月11日発表の「東北地方1か月予報(6/13~7/12)」によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並または多く、日照時間はほぼ平年並の予報です。

2 異常還元(ワキ)に注意し、適切な水管理で分げつ発生促進を

分げつの発生は日平均水温で23~25℃、温度較差が大きい場合に発生が促進されます。分げつの発生を促進するため浅水管理を実施しましょう。日中に水温と地温を高めて温度差を大きくするため、かん水は水温の低い早朝に短時間で行います。

本年は表層はく離やアオミドロ等藻類の発生が多く、ほ場で確認されます。これらの発生が多くなると水温や地温が低下し、稲の生育が抑制されます。対策として、気温の低い早朝や雨の日に水の入れ替えを行いましょう。

また、根の生育と茎数の増加には高い相関があることが報告されています。異常還元(ワキ)が発生しているほ場では一時的に落水して、土壌を酸化的にし、根の伸長を促進させましょう。

3 目標茎数を確保したら、無効分げつの抑制を

田植え時期の長期化等により、生育量と分げつ数のほ場間差が大きくなっています。

あきたこまち(目標収量570kg/10a)の目標穂数は440本/m²です。生育量や茎数に応じて、以下を参考に管理を行いましょう。

- ① 茎数不足、目標茎数未滿、遅植えのほ場⇒浅水管理により分げつ促進(有効茎の確保)
 - ② 目標茎数に達したほ場⇒中干しや深水管理により分げつの発生を抑制(無効分げつを増やさない)
- 中干しの実施期間は7~10日程度とし、幼穂形成期(7月15日頃)前には必ず終了しましょう。
※向こう1か月は気温が高く推移する予報のため、生育が早まり、溝切りや中干しなどの作業が例年より前倒しになる可能性を考慮して準備を進めてください。

＜茎数440本/m²の目安＞

70株/坪植え・・・約20本/株、60株/坪植え・・・約23本/株、50株/坪植え・・・約28本/株

4 病虫害防除は適切に実施しましょう

- ① いもち病(発生時期: **やや早い**、発生量: **やや多い**)※

余り苗で発生したいもち病は周辺ほ場への強力な伝染源となるため、余り苗は水田内に埋めるなどして直ちに処分してください。オリゼメート粒剤(2kg/10a)及びルーチン粒剤(1kg/10a)の散布適期は移植栽培で6月15日頃(6/12~18)、直播栽培で6月23日頃(6/20~25)です。



- ② 斑点米カメムシ類(第1世代)(発生時期: **早い**、発生量: **平年並**)※

本県主要種のアカスジカスミカメは水田内のホタルイ等のカヤツリグサ科雑草やノビエの穂に産卵し増殖するため、**斑点米被害を回避するためには水田内雑草を確実に防除することが重要です**。中・後期除草剤の使用に当たっては、草種や生育程度を観察して効果の高い剤を選択するとともに、散布適期を逃さないようにしましょう。

- ③ イネミギワバエ(第2世代)(発生時期: **早い**、発生量: **多い**)

年数回発生し、前年が冷夏、暖冬、5~6月が低温の年に多発しやすいです。

④ イネドロオイムシ(発生時期: **やや早い**、発生量: **多い**)※

早植や生育がよい水田で産卵が多く、山間部や風当たりが少ない水田で被害が大きくなります。また、5月下旬～6月が多湿のときは被害が多くなります。被害末期(6月下旬)の被害葉率が20%以上の場合には、収量に影響がでます。産卵盛期(6月上旬～中旬)の卵塊数が0.5個/株以上の場合には被害葉率が20%を超えるため、防除が必要になります。

※5月26日に病害虫防除所から発表された令和8年度 農作物病害虫発生予察情報発生予報第2号より参照。

イネミギワバエ (イネヒメハモグリバエ)

	農薬名	散布量又は希釈倍数 [散布液量]	散布時期
茎葉散布	エルサン乳剤	2000倍[100L/10a]	第1世代
	スミチオン乳剤	2500倍[100L/10a]	5月中下旬
	トレボン粉剤DL	3 kg/10a	第2世代
水面施用	トレボン粉剤	2～3 kg/10a	6月中下旬

イネクビボソハムシ (イネドロオイムシ)

	農薬名	散布量又は希釈倍数 [散布液量]	散布時期
茎葉散布	スミチオン乳剤	3～4 kg/10a	6月中旬
	トレボン粉剤DL	1000～2000倍[100L]	(ふ化盛期)

5 熱中症対策を万全に

この時期はまだ暑さに身体が慣れていないため、熱中症のリスクが高まります。のどが渇く前に水分補給を行い、同時に塩分も摂取しましょう。少しでも不調を感じたときは無理せず休むようにしてください。

県(水田総合利用課)の情報発信 LINE アカウントをご活用ください!

- * 県内の水稲生育状況
 - * 水稲・大豆の技術情報
 - * 異常気象対策 など
- 様々な情報が発信される予定です。



友達登録はこちらのQRコードから!

◇次号は6月26日頃の予定です。